# 農場実習報告

2026 年 6 月 1 日から 6 月 14 日までの 2 週間、浜中町の農場にて実習させていただき、たくさんのことを学ばせていただきました。その中でも、特に興味深く感じたトピックについて報告いたします。

## バイオガスプラントとデントコーン

本農場ではバイオガスプラントを導入しておられました。プラント内で発生したバイオガスは脱硫塔にて脱硫され、さらに余剰ガスはガスフレアによって焼却・無害化され、これによりメタンガスの大気放出を抑制する仕組みを学びました。しかし、プラント内に投入されるスラリーの中に、蹄浴槽で使用する硫酸銅やロボットの洗浄液といった殺菌成分が混入すると、プラント内の発酵細菌が死滅し、ガス発生効率が低下してしまうそうで、プラントの適切な運用・管理には繊細なコントロールが必要であることも学びました。

このスラリー処理における有効な解決策の一つとして、同農場では今年からデントコーンの栽培を開始されました。デントコーンは窒素吸収量が多く、スラリーの施用先として最適で、近年は寒冷な土地でも十分な収量が確保できるように品種改良が進んでおり、それに伴い窒素吸収量も増加しています。一方で、根釧地域の土地はもともと窒素含有量が多いため、施肥基準を超えて過剰に施用しても必ずしも増収には寄与しないという側面もあります。

適正な施用量の管理が重要となる中、昨今の飼料価格高騰への対策としても、デントコーン栽培は非常に注目されています。ここ数週間は低温と少雨が続いていましたが、今後積算温度が順調に上がり、収穫期には強風による倒伏被害などがないことを心より祈っております。

## 農場で活躍する機械

実習中、牧草収穫期に活躍する様々な大型農業機械に同乗させていただく機会がありました。農場には驚くほどの台数の機械が備えられており、最盛期に複数台で同時作業が行えるだけでなく、万が一のトラブルに備えた予備機まで確保されていました。これらが稼働するのは 1 年のうち数ヶ月間ですが、それ以外の期間は D 型ハウスで厳重に保管されます。翌シーズンも確実に、そして安全に稼働させるためには、オフシーズンの入念なメンテナンスが不可欠であることを教えていただきました。

余談ではありますが、実習中、様々な農業機械を操縦できるゲーム『Farming Simulator 25（FS25）』の存在を知りました。実際に稼働する機械の迫力を目の当たりにし、「いつか自分でも運転できるようになりたい」「大型特殊免許に挑戦したい」という気持ちが芽生えた 2 週間でもありました。

⬇️写真は、LELY 社製のテッターでの作業にご一緒させていただいた際のものです。LELY 社がかつて収穫機械の大手であり、そこから現在の搾乳ロボット市場へと大胆にシフトし大成功を収めた歴史を知り、企業の先見の明に驚きました。



## ゲノムの数値を活かした経営

本農場では、ゲノム解析の技術を活用して、搾乳ロボットの稼働効率をさらに向上させることに取り組まれていました。具体的には、ゲノム評価指標である RCI（Robotic Cow Index）を活用し、搾乳速度や乳頭配置などの形質に優れた牛を選抜することで、ロボット稼働におけるロスタイムを無くすことを目指されています。さらに、2 産目以上の受胎率向上を目的として CCR（経産牛受胎率）に注目しておられました。

ゲノム評価値は、ただ測定するだけでなく、その後の牛群選抜に確実に活かすことが重要であると教えていただきました。適切にデータを活用することで、遺伝的能力の低い牛の育成経費を削減し、遺伝的に優秀な後継牛を確保できます。いかにロスを無くして、効率的に高品質な生乳を生産するか、追及されていました。



## まとめ

酪農は自分の取り組んだことが結果として出るから楽しい仕事だと、後継者である社長の息子さんが語ってくださった言葉が印象に残っています。酪農を取り巻く情勢は決して平坦ではないと思います。その中で、並々ならぬご努力によって経営を維持・発展されている農場の姿を目の当たりにし、プロとしての凄さを肌で感じました。

⬇️最終日に、社長とともに桜の植樹をさせていただきました。社長の代で農場規模を大きく拡大されたそうですが、先代までの地盤があったから拡大できたのだと、お話しされていました。

また桜の様子を拝見しに、お邪魔させていただきます。2 週間、温かくご指導くださった農場の皆様に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました！🙇



藤江